

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を掲げ、仕事の始まりには復唱して共有に努め、実践につなげている。	見やすい場所に法人の理念とともに事業所独自の複数の理念を掲げ、1カ月ごとに代えながら、理念を毎朝職員で唱和し、ケアへの心構えをもって利用者にかかわり実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	定期的に地域のボランティアに来ていただいて交流をしている。学校の音楽祭などにも見学に参加させていただいていたが、コロナ禍の中、できていない。	現在コロナ禍で実践はされていないが、収束後は今までの地域ボランティアへの依頼も考えている。また法人20周年記念には法人ロゴの考案を地元中学校に依頼し現在そのロゴを使用している等、地域とのつながりが自然に行われている例である。地域の方から野菜のおすそ分けは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今までは認知症の講座や社協の依頼等を受けて年に1度程度活動していたが、昨年は行えなかった。広報誌の発行により認知症の人への理解を深めている。ボランティアの方々の受け入れも、コロナ禍で思うようにできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ後は1度も会議を行っていない。2ヶ月に1度、活動報告書を委員の方々に送付させていただいている。利用者の状態や日々の活動状況を報告し、話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で現在まで開催されていないが活動報告は運営推進会議メンバー(民生委員 家族会代表 地域ボランティア代表 区長 包括支援センター職員)に送付したり説明に向いている。令和3年の11月中には開催の予定で調整しているとの話が聞けた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査や、入居検討会議、運営推進会議に町の担当者へ出席していただき、協力関係を築いている。	町の担当者とは協力体制が密にできており、入所にあたっての検討会議にも話し合いに参加し決定している。また日頃の細かな相談、調整等垣根を越えた関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リスクマネジメント委員会を中心に法人全体で身体拘束防止に取り組んでいる。利用者が外出しそうな様子が見られたら、さりげなく声掛けして安全面に配慮し対応している。	法人主導の研修を年5回実施し、身体拘束の理解を深め利用者へのケアに活かされている。また玄関の施錠は日中は行っておらず、2ユニットお互いが利用者の行動に気を付け、行動を制限せずきめ細かな見守りケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議で学ぶ機会を持ち、利用者への声掛けの仕方についても意見交換したり注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在必要な利用者はいないが、管理者は研修に参加し、その資料により他の職員が学べるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	担当責任者が説明の時間を十分にとり、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族から無記名でアンケートを実施している。家人、利用者の要望にできる限り沿えるよう、月1度の病院受診の際やお電話した際に話を聞いたりしているが、面会も以前より制限があり、その面において不満も感じられる。	コロナ禍で面会時に要望を聞く機会も制限されているが、折に触れ電話等でできるだけ家族の要望を聞くように心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議の時、施設長も出席し、質問や意見を聞く機会がある。上司との面談を実施している。要望書提出の実施もしている。	自己評価をもとに年1回施設長、主任、管理者を交え、職員一人一人と面接を行っている。また職員からの要望書の提出により実際に施設内の備品が整備されたとの話が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則について継続して見直しを行い、職場環境・条件の整備に努めている。社労士を招き、労働における話を伺い、意見を言える場があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の希望やステップに応じた研修への機会を設けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修を通じて交流を図っているが、コロナ禍でこの2年間はなかなかできていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居検討を行う前に事前面談を行い、生活状況の把握や本人の思いに向き合うよう努めている。訴えや不安に耳を傾け要望をくみ取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との話し合いの時間を十分とり、要望等に対応し、信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネージャーとの情報交換や入居検討会議において話し合い、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理や畑仕事、掃除等できることをしていただき、役割を持って生活していただいている。共同生活で個々の個性を活かしながら関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	里だより等で状況を伝えている。病院受診は基本、家人へお願いしている。家族ともつながっていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人との面会や家族兄弟との外出を行っていたが、コロナ禍で思うようにできていない。窓越しではあるが家人との面会や馴染みの場所へのドライブを行っている。	コロナ禍ではあったが、なじみの関係継続のため感染対策をしっかり行いドライブで自宅周辺や近くの観光スポットに出かけ、できるだけ関係が途切れないよう支援を行っている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の良好な関係が保てるよう個別対応をしたり、席替えなど配慮している。また会話の橋渡しや共に作業を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された後も面会に行ったり、相談があれば支援に努めている。退去後、特養におられる方には声掛けを行っている。入院された方等、面会が行えず、そのままになってしまい、フォローを行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりアセスメントを行い、その人らしい暮らしの実現に努めている。	利用者がリラックスしている散歩中や入浴時等、何気ない会話の中から意向をつかみ取り、支援につなげている。意向を汲み取りにくい場合は本人の表情、仕草など小さな心の動きを察知し、把握に努めようとしている。実際に動物を通して意向を見つけれられたケースがあったとの話が聞けた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアンケートや家人より生活歴をお聞きしたり、日常会話の中から把握するように努め、生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録や日常介護チェック表、引継ぎノートを利用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	居室担当者が中心となり、モニタリングを行い職員会議等で議題を検討したり、面会時、家族の希望を聞いて作成している。	半年に1回モニタリング、担当者会議、計画書の作成と一連の流れをしっかりと作っている。実施記録もケアプランに即したチェック票を活用し、計画書づくりの根拠を確実なものとして職員全員で検討共有し作成されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や、食事、水分量、排泄状況等を記録に残し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの状況に応じて対応するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容の利用等をしている。ボランティアの受け入れはコロナ禍でできておらず、地域とのつながりが薄くなってしまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族に受診をお願いし、担当医、家族へ受診情報提供書を渡し対応している。また状態変化が見られる時は、受診に同行させていただき病院と連携を取っている。	かかりつけ医は、入所時に本人・家族の意向に沿い決定している。受診は家族対応ではあるが、事業所での様子が分かるよう受診情報提供書に細かく記入している。また家族のみでは十分な説明が出来ない時は必ず職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	状況に応じて併設施設の看護職に相談したり、訪問看護師に相談、対応をお願いしている。週1回の訪問又は体調変化時に電話にて助言を受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報共有に努めている。普段の状況報告をしたり、入院時、訪問したりして病院と連絡を取り合っている。面会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できていることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていないが、早い段階から家人、医師と話し合いを行い、事業所でできるケアを説明しながら支援に取り組んでいる。	現在ターミナルケアは行っていないが、今後考えていきたいとの話があった。入退院を繰り返し法人の特別養護老人ホームや療養型病床、近くの病院への入院等、重症化にともない受け入れ先はあるが、「利用者の家」である当施設の役割をターミナルケアをすることで果たしていきたいとの話があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に救命講習に参加し、緊急時の対応に備えている。施設内で講習会の実施もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回(昼・夜)防災訓練を行っている。地域の方々にも協力していただいているが、コロナ禍で地域住民の参加はできていない。	法人全体で年2回昼・夜防災訓練を行っている。地域の方の参加はないが、施設内だけで利用者を移動させる等の訓練を行っている。施設内の整備としては、居室出口に防災頭巾が設置されており、利用者一人一人の移動手段も示されている。停電時のランタンも整備されており、暗闇の不安を解消する準備があった。	地域がら積雪時の避難方法の検討、災害時の備蓄品の確認、事業所独自の通報訓練の実施を期待したい。また福祉避難所としての整備等にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の人格を尊重し、一人ひとりの気持ちに寄り添った声かけ支援を行うように心がけている。	声かけ等は常に利用者の人格を尊重しつつ信頼関係が深まる支援を行い、特にトイレ誘導の際など周りへの配慮も含め何気ない声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思を尊重し、可能な限り自己決定できるよう働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事等の決まった時間はあるが、無理せずその日の体調や気分に合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容の際、本人の希望を伝えている。入浴時や外出時、本人の希望を聞いて衣類を用意している。自分でできない方には整髪など本人の希望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理の下ごしらえや、食器洗い、お盆ふき等できる方にはお願いしている。一人ひとりの好みを聞き、季節に合ったメニューやお楽しみ献立を作成している。	食事の準備片付け等エプロンや割烹着を付けて利用者の意欲を引き出しながら役割を持ってよう工夫し支援を行っている。食事を楽しめるよう季節ごとの料理や畑で収穫した野菜を食卓に出したり、毎月10日の利用者の要望に合わせた特別メニューや誕生日には手作りケーキが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量の摂取状況はチェック表を記入している。献立は栄養バランスを考えて作成している。禁食がある方には個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	利用者に応じた支援を行い、記録している。欠かさず口腔ケアの声掛け、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者に応じた支援を行っている。トイレ誘導や定時の声かけ等、個々の対応をしている。	さりげない声掛けで本人の排泄パターンに沿ってトイレ誘導し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量に注意したり、日常のレクリエーションや体操等に運動を取り入れている。下剤の調整も時として行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴時間は決まっているが、体調やタイミングを計り、喜んでいただけるよう個々に支援している。	週二回を目安に毎日午後に入浴の時間を設けている。入浴を嫌がる利用者には、その方の生活パターンを理解し最も入りやすい時間帯を見計らって誘ったり、声掛けの工夫をして気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間はできるだけ活動していただけるよう支援している。各利用者の希望、体調、生活パターンに合わせ、休めるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容について各自のファイルにつづって、いつでも確認できるようにしている。変更があった時は、申し送りノート、ケース等に確認、情報伝達する。誤薬のないようにチェックを行っている。副作用等も理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の趣味やレクリエーションに力を活かせるよう支援している。野菜の下ごしらえや掃除等、一人ひとりできる事を無理のない範囲での役割分担で張り合いを持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナ禍でできていないが、ドライブでの外出、外食、文化祭や学校行事にも参加し、地域の方との交流を大切にしたり、希望があれば家族との外出を行っていた。天気のいい日は、施設敷地内の散歩や外気浴をしていただいている。	現在コロナ禍で以前のような外出支援は難しいがドライブの実施や、自然豊かな法人内の散策で外気浴や花見を行っている。中庭で体操も行い、出来る限り施設内だけに留まる事がないように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理されている利用者は現在いない。職員が預かり対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を所持している方は自由に電話をしている。家人より電話がくることもあり、本人が希望すれば電話をかける支援をしている。自分で書いた絵手紙など出され、やり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた制作を毎月行い、飾っている。花を飾ったり、育てたりしている。落ち着いて過ごしていただけるよう、席の配置、ソファの配置を工夫している。	天井には大きな無垢の梁が見え開放感がある。天窓からは光が差し、大きな窓からは自然豊かな風景が見え、落ち着いて明るい暖かな空間になっていた。壁には季節の手作り壁画が利用者の作品と言葉と共に飾られ、和む雰囲気があった。床暖房やランタンの設置もあり居心地の良い空間となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	長いすを置いたり、窓側を外を眺められるよう、いすを置いたスペースを作ったりしている。ソファの設置で一人でくつろいだり、一緒に座って会話を楽しめるようにもしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望でたんすやテレビを持ち込んだり、なじみの物を置いたり、家族の写真を飾ったりして、居心地よく生活が送れるよう工夫している。	各居室には、移動式のクローゼット箆笥があり、スッキリ収納されている。洗面台も車いす対応で広く大きな作りになっている。壁には利用者の作品や家族の写真が飾られ、使い慣れた家具等があった。窓の外は入所前から見慣れた景色が広がり、利用者の安心にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮し、場所や居室がわかるよう名前や目印をつける工夫をしている。ポータブルトイレやベッドも個々の状態に合わせて使いやすいよう設置している。		